

# ナス1個分の ごみ減量を

意識が変われば、行動が変わる

## 意識を変えよう

## 合言葉は「ナス1個分の減量」

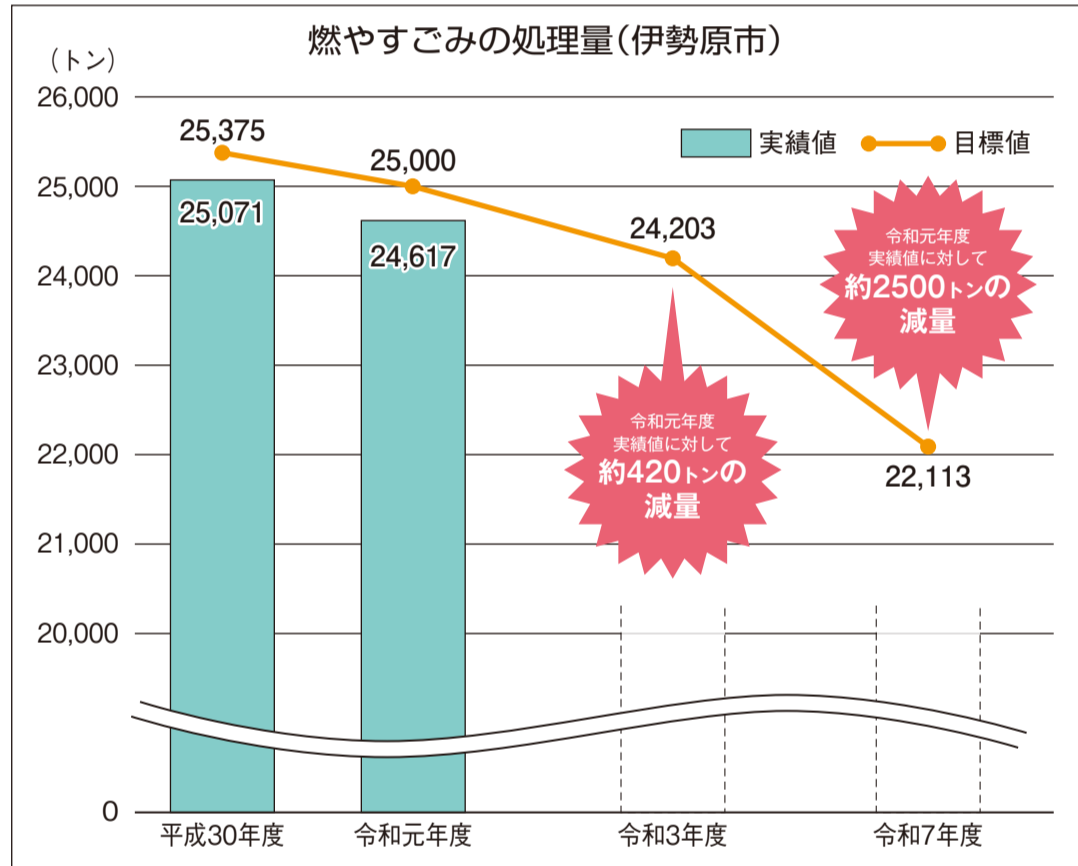
市ごみ処理基本計画では、令和3年度の燃やすごみの目標値を2万4203トンとしています。昨年10月1日号では、平成30年度実績値より、約900トン（一人1日当たりミニトマト1個分23グラム）減量が必要で、目標達成が難しいと判断した場合、家庭ごみ有料化の検討を始めるとお伝えしてきたところです。

元年度の状況は  
燃やすごみの処理量は2万4617トンで、前年実績を454トン下回り、目標値2万5000トンより383トン下回りました。

主な要因には、昨年11月から開始した草葉類の資源化や市民の皆さんによる減量意識の高まりなどが挙げられ、順調にごみ減量が進んでいます。  
2年度の状況は  
コロナ禍における家庭ごみの増大が、予断を許さない状況となっておりますが、7月末までの

対前年比では、2633トン下回っています。引き続き、ごみ減量・資源化に努めていただきます。また、さらなる減量へ  
7年度の目標達成に向け、11月から、リユース家具として再利用できない「木質系粗大ごみ」の資源化を開始します。また、容器包装にプラスチック製品を加えた「プラ資源」のリサイクルなども検討し、さらなる減量化に取り組んでいきます。

一人一人の心がけ  
伊勢原清掃工場が稼働停止を予定する7年度の燃やすごみの目標値は、約2万2113トンの減量が必要となりますが、1日に換算すると、一人当たりナス約1個分の67グラムで達成できます。  
はだのクリーンセンター1施設での焼却体制へスムーズに移行するため、一人一人の心がけが大事です。



## 行動を変えよう

## ターゲットは草木類と紙類

燃やすごみの大部分は生ごみ、草木類、紙類です。生ごみの削減には、3つのキリ(食材の使いキリ、おいしく食べキリ、生ごみの水キリ)が有効です。今回は草木類と紙類を中心に、ごみの減量を考えます。

### 草木類の資源化を進めましょう

燃やすごみの約25パーセントを占める草木類。昨年11月からせん定枝に加えて、刈草や落ち葉なども対象に含め資源化しています。

草木類の資源化量は、以前と比べて約2倍になっています。「燃やすごみ」として出さずに、資源化にご協力ください。

#### 出し方

草木類の出し方は、次の2通りです。いずれも土や砂はよく落とし、他のごみは混ぜないでください。



手作りの草木資源集積所

伊勢原南地区の木津根橋自治会(三ノ宮)では、せん定枝や草葉類の資源化に協力するため、自治会館の敷地内に「草木資源集積所」を設置し、各家庭から出る草木類の収集場所を集約しました。昨年11月から、市が草木類の収集を始めましたが、「置き場所」に困る「収集の依頼が面倒」との声もあったため、市が収集の負担も軽減できる、と集積所の設置に至りました。

今年2月、衛生委員の菊池靖行さん(写真中央)が発案し、自治会長の保坂信義さん(同左)に相談、環境対策委員の原田均さん(同右)が先頭に立って手作りし、設置しました。効果は大きく、月2回の収集時には毎回40袋以上が集まり、置き場に困っていた人から好評を得ているそうです。集約により収集効率も格段に向上しました。「資源化への取り組みが、他の自治会にも広がってほしい」と3人は期待を込めて語ってくれました。

伊勢原市と秦野市の燃やすごみは現在、2施設(伊勢原清掃工場とは別のクリーンセンター)で共同処理しています。  
焼却施設の老朽化に伴う維持管理費の増加や少子高齢化の進展による社会保障費の増加など、今後も厳しい財政状況が続くと見込まれる中、処理費用を抑制するため伊勢原清掃工場の90トン焼却炉が令和7年度末で稼働停止する予定です。そのため、両市をあげて、さらなるごみの減量化に向けた取り組みを進めています(記事の中で秦野市の取り組みについて紹介しています)。  
皆さんのちょっとした意識と行動の変化によって、ごみは減らせます。一人一人の小さな取り組みが大きな減量につながりますので、ご協力をお願いします。伊勢原環境美化センター 電話 94-7502

### 戸別収集

事前に担当へご連絡ください。日程調整後、自宅まで収集に伺います。

#### 「大きさ・量の目安」

45リットルの袋に入れて2袋以上、または3束以上(1本当たり長さ1メートル、太さ15センチメートル以内)

#### 自己搬入

草木類を担当まで持ち込んでください。中身を確認し搬入確認済書を発行します。その際、市内2カ所(西富岡、石田)にある資源化事業者をご案内します。大きさや量に制限はありません。袋やひもは持ち帰ってください。◇搬入確認済書の発行は月々土曜日の午前9時~11時、午後1時30分~4時(祝日、年末年始などを除く)

#### 対象とならないもの

◇キョウチクトウなど毒性のあるものや竹、ササ、芝生、果実、根株

#### 資源になる紙

身の回りの多くの紙が「資源」としてリサイクルできます。燃やすごみに混ぜてしまわずに資源の収集日に出しましょう。

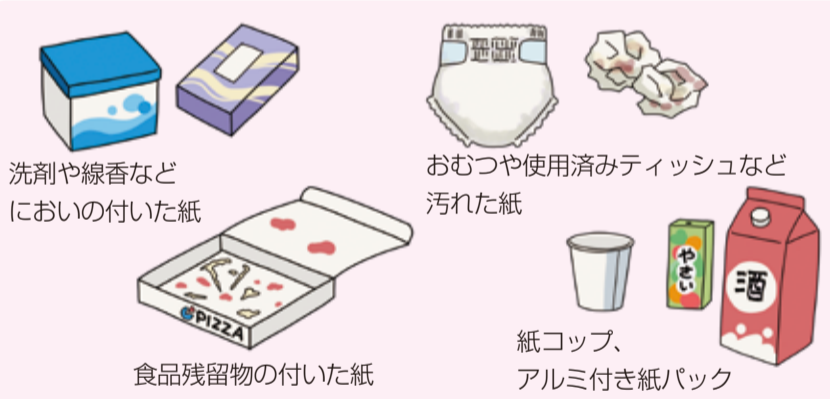
### 紙類の分別で大きな効果

燃やすごみの約23パーセントを占める紙類は、分別するとトイレットペーパーや段ボールなどに再利用できますが、年間約48200トンを焼却していることとなります。

資源になる紙類には、新聞(折り込み広告を含む)や雑誌、書籍、段ボール、飲料用の紙パックがあるほか、次のものも「雑紙」として資源化できます。



資源にならない紙  
次のものは「燃やすごみ」で出しましょう。



### 「コロナ禍でのごみの出し方」

袋の破裂による飛散を防止するため、次の点に気を付けましょう。

- ◇生ごみの水切り
- ◇袋の空気抜き
- ◇袋はしっかりと縛って封をする

### 感謝の気持ち、届けよう

家庭ごみを収集する作業員に、感謝を伝えるメッセージが寄せられています。外出自粛が影響して、家庭から出るごみの収集量が増えている中、5月上旬ごろかから、ごみ袋に「大変な中、いつもありがとうございます」といった内容の手紙が貼り付けられているのを見られるようになりました。また、作業中に「お体に気を付けてください」といった声がかかることもあります。

作業員はいつも以上に気を遣って大変ですが、温かい言葉をいただき、皆さんの生活をお守りしたいという気持ちを強くしています。(燃やすごみ収集委託作業員・松崎幸二さん)

### 共同で「ごみの処理をつくる」 秦野市の状況は?

秦野市では、令和7年度末までに燃やすごみの年間処理量を3万3600トンにするため「ごみダイエット大作戦」に取り組んでいます。次の作戦により元年度時点で3万4800トンまで減量しました。

#### 作戦1 草木類の分別

昨年4月から市内全域で分別収集を開始し、元年度は、燃やすごみの約8パーセントに当たる約2900トンを資源化しました。

#### 作戦2 「資源物」の分別を徹底

「資源物」を出しやすくするため公民館など13カ所にストックハウスを整備したほか、シユレッダーごみを資源化、レシートやアルミコーティングの紙などを「その他紙」に追加しました。また、紙袋を使った出し方の簡素化や、分別促進アプリを使った周知を行っています。

#### 作戦3 生ごみの減量

水切りの徹底や生ごみ処理機の購入補助率の引き上げによる費用負担の軽減、生ごみ持ち寄り農園事業など、地域や家庭に合った方法で減量しています。

#### 作戦4 事業系ごみの減量

多量排出事業者への立ち入り検査を行うなど、事業系ごみの分別・資源化を進めています。

### 残り1,200トンの減量のために

分別の徹底と生ごみの減量  
分別促進アプリやイベント開催を通じて、呼びかけを行っています。

#### 事業系ごみの減量

市内全事業者への訪問調査や優良事業所認定制度の創設、事業者説明会を行います。

年度	実績値 (トン)	目標値 (トン)
平成30年度	37,400	38,700
令和元年度	37,400	38,000
令和3年度	36,500	36,500
令和7年度	33,600	33,600

順調に減量中  
あと1,200トン

### 「ごみの分別の徹底を」

#### 伊勢原清掃工場で火災発生

8月19日(水)午前10時25分ごろ、伊勢原清掃工場内の不燃ごみピットで火災が発生しました。明確な原因は分かりませんが、搬入ごみの中に発火を誘発する何らかの不燃物が混入していたものと考えられます。

使い捨てライターやカセットボンベ・スプレー缶などの「有害物」の分別の徹底、バッテリーやリチウムイオン電池などの処理は購入店に相談するなど、適切な排出をお願いします。

一緒に頑張りましょう

秦野市くずはの家  
マスクキャラクター  
もりりん